YOROZU よろずとーく100 TALK

金子　純平さん(写真右)　地域おこし協力隊員
(栃木県佐野市出身)
Jumpei Kaneko

福島　博樹さん(写真左)
(埼玉県秩父市出身)
Hiroki Fukushima

地域おこし協力隊員として少しでも役に立てるよう頑張りたい

都会を離れて生活したい人などを隊員として受け入れ、地域力の維持と強化を図る地域おこし協力隊。今年6月、総務省のこの制度を活用し2人の若者が沼田での生活をスタートさせた。

金子「東京で役者をしていましたが、元々動物や森林に興味があり、活躍できる場を探していました」

福島「移住を視野に入れ仕事を探していたところ、獣害対策での募集を知りました。祖母が鳥獣被害に遭い畑をやめた経緯があったので、興味を持ちました」

2人は利根支所地域係に配属され、現在、捕獲鳥獣の検査や農地の食害確認、林道の管理や整備などの業務に従事している。

金子「農家の人も優しいですし、東京にはなかった心安らぐ風景が好きです。ただ、同世代の若い人が少ないのは寂しいですね」

福島「最初は、買い物や飲みに行く場所も遠く想像以上の田舎だなと思いましたが、静かで、今は住みやすく感じています」

隊員の任期は最長3年。近い将来彼らは再び岐路に向き合う。

金子「起業塾に興味があります。機会があれば参加し勉強したいです。縁があればここに残りたいですね」

福島「仕事のめどが付けばここに住み続けたいです。沼田に興味を持った人へ空き家と畑をセットにし、気軽に利用してもらう仕組みなども考えたいですね」

新天地で奮闘する二人へ、最後に隊員としての抱負を尋ねた。

金子「鳥獣被害の現状を子どもたちにもっと知ってもらいたい。小中学校の授業の一環で、話す機会なども持てたら良いですね」

福島「規格外野菜の廃棄が獣害の原因の一つだと思います。正規商品の価格低下に配慮しながら、新たな流通ルートを模索したいです。地域に少しでも役に立てるよう、頑張りたいですね」

消防団員紹介 No.4

地域の守り手として活躍する消防団員の皆さんをご紹介します。

沼田市消防団では多くの入団希望者を募集しています。
問い合わせ　沼田市消防団本部(防災対策課消防係内)☎内線３３６３へ

沼田市消防団第３分団(池田地区)　ラッパ隊副ラッパ長　松井英樹さん

ラッパ隊の訓練は、地元・池田地区だけでなく市や利根郡との合同訓練などもあり、年間の活動としては一般団員より多数で大変なところもありますが、地域を越えた仲間や知り合いも増えるなど、良いところもたくさんあります。また、ラッパ吹奏は個人のセンスによるところもあるので、ラッパ隊に選ばれることは大変誇らしくもあります。地域住民の安全安心に協力することはもちろんのこと、今は「秋季点検」や「出初式」での吹奏を目標に日々訓練に励んでいます。

第３分団ラッパ隊の皆さん

ぬまたフォトさんぽ

たくさんの手によって
かえる陶芸1,000作品達成
８月22日(土)

サラダパークぬまたで一昨年から開かれているかえる陶芸教室。施設を運営するNPO法人郷土利根沼田を守る会では、施設を訪れる人にはもちろん東北の被災地で出張教室を開催するなど、かえる陶芸の魅力を精力的に伝えてきました。

約２年間、44回の教室で制作された作品は1,000体に到達。愛らしいかえるたちは施設内「廣習のこみち」に設置され訪問者を癒やしています。

ふるさと沼田の集い
準市民交流会
８月４日(火)

沼田まつり２日目の夕方、ホテルベラヴィータでは準市民交流会が開催されました。

沼田を郷土とし、沼田を愛する多くの人々が絆を深める場に、市出身の市外在住者や本市に縁のある人など約170人が参加。交流会では、真田と沼田の歴史について紹介され、大河ドラマ真田丸への期待やふるさと沼田への思いを語り合いながら参加者は親睦を深めました。

晩夏を彩る花火
とねふるさと風のまつり
８月23日(日)

利根老神多目的広場で開催された、とねふるさと風のまつり。ステージでは華麗な歌や踊りなどが披露され、同時開催の老神温泉納涼花火大会の時間が近づくと、会場の周辺には多くの人が集まりました。

夜空を彩る美しい花火。打ち上げの音と光は観客を魅了し、夏の終わりを知らせるかのように老神温泉郷に響き渡りました。

市ホームページでも、イベント結果などを紹介しています。ぜひ、ご覧ください。